

令和6年度第3回家政科集会

## 卒業生による進路体験発表会

3月18日(火)7校時、今年度最後の家政科集会を開催しました。

校長先生のお話の後、2年生の船原 玲香さんがこの1年間の学びや検定への取り組みを通して成長したことを振り返って発表してくれました。



今回の家政科集会のメインは、卒業生による進路体験発表です。

発表してくださったのは、以下の5名のみなさんです。

金子 実南さん [長崎純心大学人文学部こども教育保育学科3年(令和3年度卒)]、

松尾香奈美さん [平岡調理・製菓専門学校卒業・長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科1年(令和3年度卒)]

田中 小晴さん [長崎女子短期大学 幼児教育学科1年(令和5年度卒)]

野田奈乃羽さん [長崎女子短期大学 幼児教育学科1年(令和5年度卒)]

小山田 楓さん [長崎県央看護専門学校1年(令和5年度卒)]



金子さんは、現在、幼稚園教諭を目指して大学で学んでいます。大学では、保育や幼児教育などの専門科目だけでなく、人文学部に開設されている語学や哲学の講義も受けているそうです。また、日ごろからいろんな人とかかわりを持つことや社会の一員として責任を持つことの重要性をお話してくださいました。さらに、読書にも励み、語彙力を高めることや正しい敬語を身に付けるよう努めているそうです。知識だけでなく、実践力が必要であるというお話が印象に残りました。



松尾さんは、本校家政科を卒業後、福岡県小郡市にある平岡調理・製菓専門学校に進学、昨年の3月に首席(学校長賞受賞)で卒業され、現在は長崎国際大学に在学中です。

専門学校で調理師の資格を取得した松尾さんは、栄養学の視点からも人々の健康をサポートしていきたいと考え、大学を受験し、健康栄養学科に進学したそうです。専門学校と4年制大学の授業やカリキュラムの違い、大学での時間割、化学などの理系科目の重要性についてもお話してくださいました。



田中さんと野田さんは、保育士を目指して短期大学で学んでいます。4年制大学ではなく、短期大学を選んだ決め手、奨学制度、学生生活のようす、実習などについてお話してくださいました。進学先を決める際には、自分の進路希望以外の学校の話の話を聞いてみると自分にとって新しい発見があるかもしれないことや、オープンキャンパスはその学校にどんな先生がいらっしゃるのかを知る機会になるなどのアドバイスをいただきました。



小山田さんは、県立看護学校が正看護師養成3年課程に変更しての1期生になります。看護師という職業の特殊性や実習の内容、学校での授業の様子などを報告してくださいました。看護師として求められる資質は、周囲に対する気遣いやコミュニケーション力、観察力だと挙げられていました。看護実習で受け持った患者さんの回復する姿を見たことがさらに看護師になりたいという意志を強くしたというお話が印象的でした。



← 1・2年生からの質問は、閉会後も続きました。

[在校生の感想]



○興味があることだけにとらわれず、多方面のことを勉強していきたいと思う。(1年生Yさん)

○卒業生の方が、家政科で学んだことを最大限に活かしているのがすごいと思った。(1年生Kさん)

○4年制大学か短期大学かで悩んでいたのが、それぞれのメリット・デメリットを知ることができました。将来の自分を少し思い描くことができたので、これからは視野を広げて自分の将来を見据えたいです。(1年生Hさん)

○オープンキャンパスや自分の苦手な科目を勉強するなど、今、自分ができることを精一杯やりたいと感じました。(2年生Mさん)

○知識だけでなく実践力も大事になってきて、自分でスケジュールを管理して計画的に行動しなければいけないと思いました。(2年生Aさん)

○自分の意思をしっかりと持ち、様々なことに挑戦することで進路について考えを深めるきっかけにもなるし、なりたい職業に向けてのヒントを得ることができると感じた。

(2年生Rさん)

卒業生の皆さん、ありがとうございました！！

